

マスクをすると口元が見えない…

感染予防に必要なマスクですが、聴覚障がいのある人たちにとっては、口形を読み取れなくなってしまう切実な問題です。

本校でもどうすればよいのか？まだ、これといった方法は見つかっておりません。試行錯誤の毎日です。…とは言うものの、もうすぐ学校再開が近づいてきているので、少し紹介します。

まず、本格的な授業が始まるまでは、とにかく感染予防が第一なので、マスクは着用しないといけません。マスクをしていても理解できるようにするために、どうすればよいのか…。

一般校に通う児童生徒はロジャーシステムやFM補聴システムを活用している場合が多いと思います。その場合は、マイクを適切に使用するだけで、きき取りはよくなると思います。以下のことに気を付けてください。

- ・口からマイクまでの距離。
 - ・滑舌よく、ハキハキしゃべる。
 - ・端的にわかりやすくしゃべるように心掛ける。(途中で話題を変えたり、子どもの小さな声での発言に急につっこんだりしない)
 - ・子どもたちの方に向かって話をする。(黒板書きながら…などは避ける。)
 - ・今からしゃべる、ということを知らせてから話し始める。(「はい!」「あのね!」など)
- これだけでもきき取りは随分よくなります。

あとはできるだけ目で見てわかるコンテンツも併用するように心がけて頂きたいと思います。

マスクを使うと音圧が下がるので、聴こえる児童生徒でも聞き取りにくくなる場合もあります。目で見てわかるようにすると、視覚優位の児童生徒にも有効です。聴覚障がいの児童生徒だけでなく、様々な子ども達にも有効なので、ぜひ準備してください。

感染リスクが減ってきたら、フェイスシールドやスーパーのレジで使われているようなクリアカーテンなども有効だと思います。

本校では児童生徒全員に聴覚障がいがあるので、感染予防とコミュニケーションのどちらも重要なのですが、今は感染予防優先ということで、生徒にはマスクの着用をお願いしています。教師は何を言っているのかわかってもらうために、透明マスクやフェイスシールド、クリアカーテン（フェイスシールドも併用）で対応しています。

まだベストな形は見つかっておりません。これからもマイナーチェンジしながら、よりベターな形にしていきたいと思っています。今よりもベターな形が見つかり次第、また紹介していきたいと思っています。

令和2年5月22日
生野聴覚支援学校
通級指導教室